



俳諧御傘
四

特別
~ 5
6041
4



能得法傘



終

例^まるぬは例^まおたりふ

連^つは一^つの事^{ごと}くも遠^{とほ}傷^{やま}不^ふ判^{はん}
痛^{いた}む^むは^はあ^あは^はら^らり^りと^とて
乃^{すなは}ち^ちま^まと^と白^{しろ}ま^まへ

白^{しろ}ま^まへ
下^{した}の^の時^{とき}ら^ら二^に

56-4077

礼レニ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
礼レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
久クカキテ人レハシラシト又ニ多ク人

まじりたる者
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人
乃レハ多ク人レハシラシト又ニ多ク人

ゆり物よ二あり路し海心な
ぬく聖山乃あ神よとく
白物よとく海物よ二白海の
まよふは物よとく不苦能し

神ゆい水 あり世よあり次調
よ二白まこと

神と袖 三白まこと

神よ 山敷し袖物し袖人よ
本成伐績をとり山

敷よあり次袖とら我本よ
まらよと袖物とありまき
能うのそまらとくまきとら
お乃まき本成もとりとら袖
まら袖とら

そまらとく ありあり
朝のむ世の時よとら
そまらとく

祖 連よ二われと祖よハ三
あり

そまらとく 田をまき袖物し袖と
袖物よ二白婦人編

よあり次山田と袖とら袖乃
力こそ熱くくれとまらとの
あり成よく袖物とまき人かじ
とそまらとく袖とらとあり袖
あり水を田よとりと袖とら
そまらとく袖とらと袖とらあり
本まらとの袖流るれた家よ
はあり袖とらと袖とらと袖とら
そまらとく袖とらと袖とらと袖とら

歌へく續ありし之文傳官
乃傳教とい若菜乃申るり
付くもく傳し〜寸は云
お家の傳教よよそへ〜田
をま傳傳うよあそそあり
句あり〜もりや海〜の傳
教と云え〜

その字

てふとものそ乃字
濁り時を二句始こ
〜の教濁り時を
二句まこ

そふ〜のり 皆三句まこ

連よ三句まれと傳よ
二句まらり松の煙
竹の煙ありの〜ありとこ

連よ松竹と打越を始
兼おあ〜と〜其傳り
連よ三句の袖を二句始
加よ二句さり三句ま乃り
〜めあ〜お〜
〜い〜袖も〜松竹
も始傳う同あり

汗

躑躅 亦三連歌よ二句
乃袖を〜傳傳よ

ハ二句ま〜一但今一句
物を〜〜と〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

中略... 名なれどもわら
あつていしれ名よ成るれ
しまのまよよらう次うこ
ひうよひうまうこなめうよ
来らりうまうこてさちらよ
くよはれをうあるしはド
ク花極福よまうこ次花乃
まよの三句まうこひうか
名なれし衣敷よ成し

平海 連歌よはらうともあつて
ハハハ二五鶴とくを養う
つと三句わをうくまうこ
徳島の巢ハまあまの巢
ハなると鶴の巢ハ難し
わらひをう思成ハつ

くいの瓢箪或ハ人志名の
平海まとも三句の肉なり
あ又らのはらうへつ
魚米乃あまものを遊鳴
獲るまうこ平海ようて
ま海ともま三句の門を
あへ

平海乃林

いし成成一産
一むかりよまうこ目む乃
双林の句林あうま海
乃林とわらうへあまも
あまハ山敷ま名下し天
乃平海の林うま林乃分
ハ山敷まも極物まも
あう新式目よま定ま

年月二日ある小八場より
又又月毎八月乃字のあきつた
月乃字よりあきも不始

月よ

ても不若月よ月次
乃月の字連よ又向るわ
離よ三句まへ

月小目次の目

日月次月
折紙を始末し

月日星

此の老相三句離
よ三句は始末

月乃字のあき

乃の月

不可^チ始物も形武の文を
形武の可も外相乃より
乃のあきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

乃あきの始む乃滝木

海にのちあふくしは波はよ
るは及波相し又あはれはも波
物るれは月乃ちあはれはあはり
りわらうは神よはわらぬ乃ち
るれは波物よ成し月のあは
るらわらあは

月乃ちあはれはあはりわらぬ乃ち
るらわらあは

れあは

あはの月 神よはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

あはの月あはれはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

月のあはれはあはれはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

月であはれはあはれはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

あはれはあは

月乃ちあはれはあはれはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

あはれはあは

月を 月のあはれはあはれはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

乃月

月乃ちあはれはあはれはあはれはあは
あはの月あはれはあはれはあは

あはれはあは

あはれはあは

あはれはあは

あはれはあは

まへ

月夜つらば 燈よせむまへ

てあはれ月乃ちらりくけと
燈乃ほ干とゆゑさるれと
月のあつ時さ燈を月申ふ
てしむとさこもあはれの方
こ又月のおさ飯をこしり
つあつめさこもあはれの方
あはれり連歌よれと何燈よ
面と燈さしものおさ飯を
おをさめゆへに燈をいさ時
い面をゆへに又月あつて
舞のてしかなあまのおしり
あつとあはれの方よこる燈を
燈あはれりさつとあはれ

月夜

あまのつらばりし燈をいさ
あつとあはれの方よこる燈を

あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を

月の花

つらばりし燈をいさ

あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を
あつとあはれの方よこる燈を

梅く春の歌を付よたはし
それも紅葉よ付るはく書
乃又心かきもらるる
はらふあつうきくも同意
成るしとく句禪よらん
まこと

此の
おろおろおろ
おろおろおろ

はらふ福もあつたぬよ
と松を物とさじまの
てもおろ乃字あれし
おろ乃字あつても
字あきしとあつた
之句と余のあり
はらふ
おろおろおろ
おろおろおろ

て初まはるあつた
なはなをさるる

松 ねんまをさるる
なはなをさるる
成る連よ一句の
離よ二句へ
餅をばかよ
はらふのありと二句

おろおろ
おろおろ

はらふすとの
はらふすとの
乃ありとあつた
おろおろおろ

はまのま

瀬よのこあろ介
三門よいひあら

これをもわをいさうしめ

主君親祚道法祿

はま

あとうくく二句ま

こまはくく一こひあ

はま

連一あまを祿よ

二まうくまはくくあ

を久けあよ今一ありあ

あまはくくあまはくく

はくく二乃うまらめあり

文字もあまをいおま

二句ま

はま

まのまこひ字を
あまともま

ままはくくはくく

あままはくく二句まはくく

あままはくく二まうくあ

あままはくくあまはくく

あま

はま

人悔は徳死やあま

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

あままはくくあまはくく

はて

連ふ二あり雛よ三ま
鳥と膝とよのる初こ

之片まうくろ熱も膝も不可

能らりませくわをまうあへ

あははくともは肉ははくは後

よりまらり人備よあはす

はてと海り

雛よはわをうへて
とありはくもく

とふ二句まき

月日とははふら約は

枝は

種あり月日の新えると枝

るる月日るとの月次の月

日ハ秋いさす

雛若

るわらふ鳥屋くひ
たひふ十二月晦りかふ

あははくともは肉ははくは後

一海り民を痛くゆへに

大と種り田用あつ厄鬼を

はくも種乃らあへの夫

とまけくあまははくは後

種

園

まへ一こあふこ雛若よ
い二まへ一種乃まぬ

子の字を乃をまう一面を

ゆへ大雛若ふあ七句を園

と種ありまうくろむ連り

面をゆへに雛よ七句は

丸まぶさりわうあしめよゆり
糸あつた糸乃字まそへいさも
ろへくまろりむよゆり
寸圍を屋卷の二名こまこ
りむをまきまき部のみり
くく神乃字たしくまこ
も時面をうぬふ次連よ
ともあまは糸よあまのく
ら紙のあへゆへくす深
墨ましく教まは種もも園
二乃内

寝字

新式は一産四乃
たるれは遊遊のい

あつと教よよんこくはあ
まへく糸のみり寝獨糸
糸冠糸とく糸をさ糸

のり花糸の糸人さの教
こまあよぬりこく糸の連
まよ面をまきまきも遊
よ七句まは園眠約いも七
句まこ人糸糸よは蝶糸
ぬり糸よ七句まへく又も
乃ぬりよ蝶のぬりあま
面をゆめあるまは蝶糸乃
糸のぬりもむりくいあま
くす寸生敷をくく二ま
るく糸も糸のぬりあ
糸あつるく糸をまきま
へふく寝乃字ま乃あま
糸あ糸とぬりこま
糸あ糸乃字ま乃あま
ぬり糸まあくと連糸

定た終もも地よ及さる
深きし終るぬりよ非なる
去とありわうよありとて
伏見るよまらふよの地へ
寸起ふよまじりも二句ま
ありはまたなまらふ物乃ま
ありありとつる酒乃ま
むらありとのま毎らり真ま
めくまらり酒ちまもま
終るらりも一切の指合
終りしは終るよ一既来り
終るへりし寸終るまよ及
二句ま終るま乃酒まの
まらありま酒八句中
まらりの終るまを扱
あれまらまらまら

終るへりし寸まの
酒かいた目か度らりあり
まらえ終るまありし酒
かいたありしとまらる終
まよらりしとまらる終り
し酒まありし酒まらり人
りし寸終る乃めら終る終
ありし寸まのめら終るま
非終る

子日

まら正月神子の目
ふれく小松を引る
又高懸院の地河ま二月
まらしとわら終るま松
子日終る地とま終り
終る終る終る終る終る

御書付らとてその及の字の御
不審一くを代まよみ日
を付させ原竹方と彩武の
以の旨よ御書乃をとり
ありおこし敬宗様も子日
よ松平の信けとてしり越
子日と書くはきなり人の
をよまきつちわしとて
ありるに心もつた松よみ
日よ宛付合しお書いと付
とて子日とらふよ松と付ら
し月付よおり回しよ
ありの差あわさしりよ
割とて家連うのくさり
まてし連款も今からとて
とてしありなり門中

松よみ日を付くもくら
く次子日よ松を信す
るゆき子日の徳穂よ二句を
何ら書かすし事な松よみ
日ハ折紙を嫌と櫃よま
なり一巻書院二月の子日と
人書わすしとてわ去依日記
りも二月よ子日歎されし
書ハ正月よつとて次とて
ありるは唐乃文よあり
るゆき書くは松よ松よ
後付あり子日乃句とて
し不審しとて今はち付の
とてしとてのまし松より
を得しとて松よとて
とて同松よ子日回し

根 癢腫乃根よりなる痛也
根 根者根よりなる痛也
乃法山の隠るる字ニ句
まゝぬじ但句よりわくを
乃字よりその字も通へり
す下の字も同じ隠も同
え字の系字 糸字を
ぬもきくくく

根字

根 根者根よりなる痛也
乃法山の隠るる字ニ句
まゝぬじ但句よりわくを
乃字よりその字も通へり
す下の字も同じ隠も同
え字の系字 糸字を
ぬもきくくく

糸

糸

糸 糸者糸よりなる痛也
乃法山の隠るる字ニ句
まゝぬじ但句よりわくを
乃字よりその字も通へり
す下の字も同じ隠も同
え字の系字 糸字を
ぬもきくくく

花乃乃乃こんいもをほく
るうう次回乃乃乃乃小を核
糸を点んうめられし粒
糸をよと切へうう切るのこ
よら乃乃乃乃三句まこら
にたうハ二句しを林一字
わきたあまこあらうう二句こ
人あまううハ文字あよあ
取付句をうり端々之のま
ハ灘よ一産又句をれし同句
を端それも怪を解る人の
名のよ昂おの装又よ懐し
付くもくらううう切りし
しり子目よ乃討るし同字
るれも同字よ此のほな
ううめもきしんす

次より

とゆりよあうし

又中よまへまう
ふとへまじ又よののゆり
よあわりく下句あとのゆ
うよハあまあ秋連よ二句れ
物されし灘よハ二句まし

あ

二のまをうむの八目よ

ていんあまはあうさ

ふよしりびかよあり灘
よハあま三のまをうむじり
一ねまうへまあいと装入よ
うあま今う一まをうむ二ハあ
あ二乃亦に詠と装よりう
附らかうまよも同装うも
きしんす切らうよらうあ二
句端をまをうむしりよハ

と見らるるは海なる一帯
名前の洞川と同行するを
白くく次海川と標榜の
名をあらわす

洞川 連よ七句 離よ一
又句あり

海よ 名はらるる不通 離よ
名も好くあらうとされ

二句 離よ

泣よ 名は 離よ 三句
人志は泣乃言のこ

生類乃らるる 啼鳴なるや
文字より海なるあらうと計

りふの人名のあらうよと計
無くもとて 離よ二句あり

一と 離よ二句あり

名は 名は 離よ 二句あり

他付句計を 離よ 二句あり

乃言の 名は 離よ 二句あり

去る 名は 離よ 二句あり

うそれと 離よ

名は 名は 離よ 二句あり

同し 名は 離よ 二句あり

七句も 名は 離よ 二句あり

名は 名は 離よ 二句あり

名は 名は 離よ 二句あり

名は 名は 離よ 二句あり

名は 名は 離よ 二句あり

名は 名は 離よ 二句あり

ありのこ海らさつろ 雲が融金
 し新式よりんぬきされん
 後用とてへく使さくはらる
 髪より髪とやひのまをよ
 しとあひは二句ましるごとく
 忠とく熱とく入る熱く
 つくともつくと教めと二句を
 乃物と二句さわ三句去の物
 の二句さへんまると教めと
 のともあひあひく入るま
 さく物くまくと並ぬ
 田舎の音とりあそぶあつひ
 とあそぶあつひ物とれまの
 鳴よ面とくは物まうたれ
 大せの場へ入りとるは物
 とるは物とくは物まうたれ

ともふり物くとあつひと
 乃味りくたれまのつひの
 な物とるあつひまくと物くと
 つひよよあつひの月
 法事とるあつひと家紙の
 物と物とまつひとあつひと
 つひとあつひとあつひとあつひと
 なるあつひとあつひとあつひと
 なるあつひとあつひとあつひと
 まつひとあつひとあつひとあつひと
 なるあつひとあつひとあつひと
 まつひとあつひとあつひとあつひと
 なるあつひとあつひとあつひと

款と本はまへへへへ 極物
 二

白き新式目あつひ併ひか

めくハ増あるぬ事なるハ
この積るけきのなかをひた
のちまあるあまハ植物ハ増
さけちまあるけきけしむ
ひくぬあまハ植物ハあま

あまわ

あまわ 意ハ一花とよハ一
部ハ積めくも何の
うまても今二句あまわ
三句の物と次名ハ増ち
わをうくく又まへハあま
ハ余故とよまゆハ名りま
あまハ二句増ち

名

名 意ハ一花とよハ一
部ハ積めくも何の
うまても今二句あまわ
三句の物と次名ハ増ち
わをうくく又まへハあま
ハ余故とよまゆハ名りま
あまハ二句増ち

あまのあま

あまのあま 意ハ一花とよハ一
部ハ積めくも何の
うまても今二句あまわ
三句の物と次名ハ増ち
わをうくく又まへハあま
ハ余故とよまゆハ名りま
あまハ二句増ち

あまのあま

あまのあま 意ハ一花とよハ一
部ハ積めくも何の
うまても今二句あまわ
三句の物と次名ハ増ち
わをうくく又まへハあま
ハ余故とよまゆハ名りま
あまハ二句増ち

あまむし 三白し

波乃花

あまむし 下白濁之極
物よ玉下し濁之極

新式密波乃花 乃花はあまむし 波乃花はあまむし
乃花はあまむし 波乃花はあまむし
乃花はあまむし 波乃花はあまむし
乃花はあまむし 波乃花はあまむし

新波

あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし

あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし

あまむし

あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし

あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし
あまむし 波乃花はあまむし

句をもしるうの句種二句
ありと句と種よりのくま
い二の内

夏丸種と云句小 短ふあは
そむ新り

こころを種まへくくは

渚 二今一り名を和よらるる

あり種 中種と種同あ一和
めらら乃種たりあ

天一種乃ほりし種田の内
名種と種紙くくくくの何

ひは種も 種と種物と種を
種は種と

波乃種 種と種物と種を
種は種と

波物 ありてそむは
たれとたりの種よるる

種はし 種はし

波 三句をそむは種と尾種
乃波種波未あ種り

わらうとつとつと波乃字
よの字まき

あまの字 種まとくあ
種のをより三句ま

し種と種林ハ双種とくけし
二句をそむは種まよるる

つんじとあつとわつとつと
種まをそむは種まよるる

くの人おはは中の種乃字
こまの種とつとつと乃字

こまの種とつとつと乃字

ともあな二句端し

流きうれ 連は二わわ排は二三あり流
あはと殺は續も三乃内し

は乃と若し流人流罪流しん
いあしきしあうれまとは流

は續句あしきし二句れ内成
句一左せん乃もあうれいあ

迎下もあしきしあうれいあ
るがわしきし水もあしきし流

乃一流を三乃あしきしあうれと
し乃流もあしきしあうれ去らわ

水もあしきしあうれ

あしきしの乃せき山敷し

あしきしあしきし一排は二三あり

あしきし二流乃あしきし流
あしきし流乃あしきし流

あしきしあしきしあしきし
乃あしきしあしきしあしきし

中ちゆう乃あしきしあしきし
あしきしあしきしあしきし

あしきしあしきしあしきし
あしきしあしきしあしきし

あしきしあしきしあしきし
あしきしあしきしあしきし

あしきしあしきしあしきし
あしきしあしきしあしきし

あしきしあしきしあしきし
あしきしあしきしあしきし

中ちゆうあしきしあしきし
あしきしあしきしあしきし

あつたが今一うさこり
蝶女とあつたさうふに中
立乃四よ八添るう二と
ハ不^ふ可^かし^しとせ

媒 ^{まへ}人倫^{にんりん}の中^{ちゆう}のなま^{なま}立^たれたまに
二^にうま^まと^と媒^{まへ}乃^の一^{いつ}字^じのあ^あみ
のく^くら^らは^はは^はい^いと^とせ^せの中^{ちゆう}に^にあ^あ中^{ちゆう}
ま^まの^のな^な乃^の白^{はく}の中^{ちゆう}に^にあ^あと
媒^{まへ}は^は連^{れん}り^りね^ねを^を魚^{ぎよ}へ^へし^し能^{のう}は
ハ^ハ面^{めん}を^をこ^こし^し海^{かい}也^{なり}

あ^あり^りと^と ^{そん}ね^ねと^とく^くし^し命^{めい}ト
と^とハ^ハ二^にう^うま^まへ^へし^しね
一^{いつ}は^は二^にう^うま^まを^を迷^{まよ}懐^{わく}よ^よと^とせ^せし
る^るは^はさ^さわ^わ ^{どう}宗^{そう}と^とあ^あを^をね
乃^の字^じの^のな^なま^まは^は

一切^{いっけつ}の^の事^{こと}は^はな^なら^らず^ずと^とい^いふ^ふ事^{こと}は^は
と^とせ^せよ^よと^とい^いふ^ふ今^{いま}一^{いつ}ま^まへ^へ

あ^あり^りと^と ^{そん}ね^ねと^とく^くし^し命^{めい}ト

神^{かみ}道^{みち}は^は物^{もの}を^を習^{なら}ふ^ふ又^{また}人^{ひと}を^を結^{むす}
る^るは^はさ^さわ^わと^とい^いふ^ふ事^{こと}は^は
わ^わら^らい^いと^とい^いふ^ふ事^{こと}は^は
一^{いつ}は^は二^にう^うま^まを^を迷^{まよ}懐^{わく}よ^よと^とせ^せし
而^{しか}に^に一^{いつ}は^は二^にう^うま^まを^を迷^{まよ}懐^{わく}よ^よと^とせ^せし
又^{また}世^よの^のあ^あら^らは^はい^いと^とい^いふ^ふ事^{こと}は^は
先^{まづ}物^{もの}習^{なら}ふ^ふ事^{こと}は^は
あ^あり^りと^と ^{そん}ね^ねと^とく^くし^し命^{めい}ト
と^とハ^ハ二^にう^うま^まへ^へし^しね
一^{いつ}は^は二^にう^うま^まを^を迷^{まよ}懐^{わく}よ^よと^とせ^せし
る^るは^はさ^さわ^わ ^{どう}宗^{そう}と^とあ^あを^をね
乃^の字^じの^のな^なま^まは^は

るいありわ まじりありわ

祭の花 まじりありわ まじりありわ

月竹糸の糸 まじりありわ まじりありわ

糸糸の糸 まじりありわ まじりありわ

Handwritten signature or mark at the bottom left of the left page.

